

赤十字国際ニュース

2020年 第13号 2020年4月1日

(通巻 第1370号)

日本赤十字社 国際部

東京都港区芝大門1-1-3 TEL 03-3437-7087 / FAX 03-3437-0785

E-mail:kokusai@jrc.or.jp <http://www.jrc.or.jp/>

■ 手洗い習慣の大切さ ~緊急事態に役立つ平時の赤十字活動~

現在、世界的規模での新型コロナウィルスの感染拡大を受けて、一人一人が感染を防ぐための衛生行動がひろく呼びかけられています。例えば、こまめに石鹼で手を洗うこともそのひとつ。手の表面に付着したウイルスや細菌は、正しい手洗いを実行することで、かなり落とす効果があるからです。いつも以上に毎日意識して行われている方も多いのではないでしょうか。

ひとたび世界の国々に目を向けると、まずもって水を手に入れることさえ容易でない環境もある中、赤十字は、平時から水と衛生に関する活動を推進し、手洗い習慣の大切さを啓発しています。今号では、日本赤十字社（以下、「日赤」）支援による世界の赤十字社による活動を3つご紹介します。

■ フィリピン “子どもたちが自分で考える衛生習慣”

フィリピン中部に位置するセブ島。ビーチリゾートとして有名なこの島ですが、2013年11月の台風30号「ハイエン」により、広範囲に壊滅的な被害を受けた地域の一つです。フィリピン全体の被災者数は、人口のおよそ16%にあたる1,600万人にも上りました。セブ島北部地域で実施した地域保健衛生事業では、小学校に通う子供たちを対象に衛生促進活動を行いました。「子供たちが自分で考える衛生習慣」とは？[詳しくはこちらをクリック](#)



■ ハイチ “長期的な活動が生んだタカラ”

下級生に手洗い指導をする様子



「コレラを撲滅しよう」と手をあげる住民たち

カリブ海に浮かぶ島嶼国、ハイチ。日本からの直行便ではなく、アメリカやカナダを経由しておよそ35時間。そんな日本からは距離的に遠い国で、2010年に発生した大地震、そしてその後に大流行したコレラに対して、日赤は緊急救援から復興支援まで様々な形での支援を実施しました。中でも住民参加型の保健事業は、特に地震の被害が大きかった地域を対象に実施しましたが、そこで活躍した地元看護師たちは、コレラの感染が深刻な地域も訪れて、予防に必要な手洗いや汚れた水の処理などについて、住民たちに伝えて回りました。[詳しくはこちらをクリック](#)

■ ネパール “水とくらし”

世界の屋根とも称されるヒマラヤを擁するネパールは、2015年に大きな地震に見舞われました。全壊または半壊した家屋は89万戸あまり、被災者はおよそ560万人と報告されています。日赤が復興支援にあたってきたシンドバルチヨーク郡の山間地域の村々では、各家庭に水道設備があるわけではありません。そこで、安全な水を確保するため、村人の参加のもと、大がかりなプロジェクトが行われました。赤十字が実施した具体的な支援とは？ [詳しくはこちらをクリック](#)



何をしているところでしょうか？

平時から、地元赤十字社スタッフやボランティアによるこうした地道な活動が行われることで、現在のような予期しない感染症の広がりを受けたときにも、地域の人々が主体となり、そこにある資源を活かして、適切に課題に対応する力が生み出されます。赤十字は、世界中で感染症の予防と対応に取り組んで行きます。

負のスパイラルを断ち切ろう！

**新型コロナウイルスの
3つの顔を知っていますか？**

新型コロナウイルス

3つの顔について知る

—

感染拡大を防ぐために
学んでみよう！

～今回のニュースはいかがでしたか？ご意見・ご感想をお待ちしております～

良かった・もっと知りたいテーマや記事、改善してほしい点など下記アドレスにお寄せください。

ご意見・ご感想をいただいた方の中から抽選で毎月1名様に赤十字グッズを差し上げます。

いただいたご意見・ご感想は今後本ニュース内でご紹介させていただく場合があります。

★★ 日本赤十字社 国際部 kokusai@jrc.or.jp ★★